

指定管理者制度導入施設 管理運営状況(令和5年度)

基本情報						
施設名称 (愛称)	滋賀県立テクノファクトリー					
HPアドレス	http://www.tf-shiga.jp	(建物外観等)				
電話番号	077-516-0410					
所在地	草津市野路東7丁目3番46号					
設置目的	独創的な技術に基づき、研究開発の成果を利用して行われる新製品の試作ならびに製造に係る技術の開発および改良を支援することにより、県内における産業の振興を図るため					
所管	部局	商工観光労働部				
	課等	モノづくり振興課		支援棟→		
設置年月	平成13年2月					
土地	敷地面積	8,029.26㎡	避難所指定等	-		
	市街化区域	市街化区域	防災拠点指定等	-		
	用途地域	準工業地域	文化財指定	-		
建物	延床面積	2,616.27㎡	再生エネルギー等	-		
	取得価額	426,679千円	自家発電設備	-		
運営	運営方法	指定管理	バリアフリー	障害者用エレベーター	無	
	運営時間	9:00~17:00		多目的トイレ	有	
	休館日	土日祝、12/29~1/3		オストメイト対応トイレ	無	
駐車台数	65台			車いす使用者用駐車場	有	
特記事項	指定管理者:					
施設概要						
名称	主体構造	設置年	延床面積	階数	耐震	備考
テクノファクトリー 支援棟	鉄骨	H13.2.26	199.24㎡	1	現行耐震	
テクノファクトリー 工場棟(1~5号棟)	鉄骨	H13.2.26	999.97㎡	1	現行耐震	
テクノファクトリー 工場棟(6~7号棟)	鉄骨	H14.3.14	398.91㎡	1	現行耐震	
テクノファクトリー 工場棟(8~10号棟)	鉄骨	H14.3.14	599.85㎡	1	現行耐震	
テクノファクトリー 工場棟(11~12号棟)	鉄骨	H14.3.14	399.99㎡	1	現行耐震	

指定管理者管理運営状況（令和2年度～令和5年度）

指定管理者管理運営状況

年度	指定管理者	指定管理期間
R5年度	公益財団法人滋賀県産業支援プラザ	令和5年4月1日から令和10年3月31日
R4年度		平成30年4月1日から令和5年3月31日
R3年度		
R2年度		

成果情報	R2	R3	R4	R5	備考
利用可能日数(単位:日)	243	242	245	246	
年間利用人数(単位:人)	135	142	142	141	年間延べ入居者数(社)
1日あたり利用人数(単位:人/日)	94.0	99.0	99.0	97.9	年間入居率(%)
年間収入(単位:円)	27,478,006	29,029,945	28,834,240	28,886,350	
1日あたり収入(単位:円/日)	2,289,834	2,419,162	2,402,853	2,407,196	1カ月あたり収入(円/月)

収入・支出実績 (単位:円)	R2	R3	R4	R5	備考
収入①	27,478,206	29,030,132	28,834,240	28,886,572	
施設利用収入	27,478,006	29,029,945	28,834,017	28,886,350	
指定管理料	0	0	0	0	
その他収入	200	187	223	222	
支出②	26,596,032	26,002,492	27,992,832	25,459,718	
人件費	9,579,499	5,443,897	5,059,525	3,146,649	
施設管理費	3,976,333	7,518,395	9,893,107	8,987,069	
事業費	13,040,200	13,040,200	13,040,200	13,326,000	指定管理者から県への納付金
収支 ①-②	882,174	3,027,640	841,408	3,426,854	

モニタリング実施状況(令和5年度)

報告書の別	内容
年度報告	年間事業報告書(令和6年4月報告)
月例報告	月例報告書(毎月報告)
実施調査	令和5年11月、令和6年3月 実施

利用者ニーズの把握

手法・実施時期	令和6年3月に入居者アンケートを入居事業者に対して実施
実施内容	入居者へのアンケート調査
調査結果	<p>・入居者アンケートにおいて、100%の入居者が、テクノファクトリーに対してふつうまたは満足していると回答しており、高い評価を維持している。</p> <p>【アンケートの主な声】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設備が充実している。 ・入居期間が限られているので、退去後の展開について不安を感じている企業が多い。

工夫・成果のあった点、運営上の課題

・現在、工場棟の全区画の電灯が水銀灯であるが、メーカーに電球の在庫が無くなった(今後も生産されない)ため、現在保有している電球を使い切った時点でメンテナンスができなくなることから、それらの電灯のLED化等を検討していく必要がある。